

# 令和元年度 学校自己評価結果

## 1. 評価方法

○評価の実施に当たっては、文部科学省が定めた「専修学校における学校評価ガイドライン」を参照として本校の評価項目を設定した。

○各評価項目について、学校評価アンケート結果も踏まえ、次の評価基準により教職員が実施した。

・ 適切：4 ・ ほぼ適切：3 ・ やや不適切：2 ・ 不適切：1

○評価結果は、各教職員の自己評価結果の平均値とした。

## 2. 評価項目の状況

### (1) 教育理念等

評 価 項 目	評価結果
①本校教育の特色は明らかか	3.6
②今後学校の目指すべき教育方針や在り方が確立しているか	3.0
③教育理念・校訓・教育方針などが学生・関係業界・保護者等に周知されているか	2.9
④育成する人材は、業界のニーズを踏まえているか	3.1
⑤学則・諸規程等は、十分に整備されているか	3.2

平均：3.16

### 【評価内容】

○教育理念、校訓、教育方針のもと、時代の変化に対応して学科編成やカリキュラムの見直しを行ってきており、来年度から新しいカリキュラムでの教育に移行する。

○中長期的な観点からの学校の姿について議論し、全員が共通の認識もとそれに向かうことが大切である。

○業界のニーズは社会情勢とともに常に変化するので、業界と連携しニーズ把握に努めなければならない。

## (2) 学校運営

評 価 項 目	評価結果
①教育理念等に沿った運営方針や事業計画が策定されているか	2.9
②運営組織は、規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか	2.6
③学校的意思決定は、校長を頂点に組織化されているか	2.5
④業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.0
⑤教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.1
⑥業務の効率化に取り組むとともに、教職員間の情報共有は十分行われているか	2.4

平均：2.75

### 【評価内容】

- 校長が最終的意思決定を行っているが、そこまでいく過程については更に明確に組織化する必要がある。
- 学科長の廃止以来、事務局と比べ教員側の指示命令系統の整備が必要である。
- 教育活動等に関する情報公開は、更にあらゆる手段を駆使してPRすべきであるが、今年度はココリでの展示スペースの設置、紅梅通り文化祭出展等地域において情報発信できた。
- 学生指導は学年担当を置いて、組織化できている。
- 教職員間の情報共有は十分とは言えず、学科会議の活性化や情報共有できるシステムの構築が必要である。

## (3) 教育活動

評 価 項 目	評価結果
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2.9
②教育理念、教育方針や業界ニーズを踏まえた教育到達レベルのための学習時間の確保は明確にされているか	3.0
③カリキュラムは体系的に編成されているか	2.9
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか	3.0
⑤業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.1

⑥実践的な教育（インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか	3.4
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	2.7
⑧外部関係者からの評価を取り入れているか	3.0
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.0
⑩教員は学校の教育方針に基づき授業を進めるとともに、教員相互に連携し学生の指導に当たっているか	2.9
⑪目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.7
⑫業界団体等との連携において優れた外部講師を確保するなどのマネジメントは行われているか	3.3
⑬卒業生やジュエリー産業従事者等を対象に実施している夜間講座は、有効に機能しているか	1.9
⑭教員の更なる能力開発のための研修等が適切に行われているか	2.4
⑮産地の一流職人を活用するなど、地域性を考慮し特色ある教育に努めているか	3.4
⑯3年次の分野を選択して専門に特化する授業形態は、効果を発揮しているか	3.1
⑰グローバル化の進展に伴い、国際対応力の強化に取り組んでいるか	2.8
⑱附属施設である山梨ジュエリーミュージアムは、山梨県のジュエリーを広く県内外に情報発信しているか	2.4

平均：2.88

### 【評価内容】

- 1年かけてカリキュラムの見直しを行った。基本となる考え方は、ものづくりの根幹である基礎授業の充実と、自分のデザインを自分の手でジュエリーにできる技能を身に付けること。
- 来年度から新たなカリキュラムを全学年に導入するが、学生に混乱や不利益が生じないように綿密な見直しをしなければならない。また、学生や業界等への周知も必要である。
- 夜間講座は12講座中2講座しか開設できなかった。夜間講座はニーズがなく、機能していない。
- 夜間講座のニーズ把握が難しい。また、開講時間についても意見が分かれている。
- 夜間講座は事業全体の目的に比して、数年前から機能していない。
- 教員の資質向上に係る研修の実施が不十分である。
- インターンシップは業界協力のもと、15日間と長期間に行われており、実践的な体験ができて有効である。

- 授業評価については、学生アンケートしか行われておらず、外部委員の評価が必要ではないか。
- 国際化への取り組みのうち、海外研修はあるものの、語学力向上をベースとした実践的な取り組みとなっていない。
- 専門教育（ジュエリー）のできる教員の絶対数が不足しており、非常勤講師に支えられているのが実情である。
- 山梨ジュエリーミュージアムにおいて、教員の作品を展示した「宝美展」を開催した。また、卒業制作の発表では、展示スペースを拡大して行う。
- 学校パンフレットに山梨ジュエリーミュージアムの紹介を新たに追加した。

#### (4) 学習成果

評 価 項 目	評価結果
①関係業界への就職率の向上が図られているか	3.6
②ジュエリーコーディネーター試験、技能検定等の合格率の向上が図られているか	3.4
③退学率の低減が図られているか	2.9
④留年者数の低減が図られているか	2.9
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3.0

平均：3.16

#### 【評価内容】

- 心の病を患う学生については、教員では判断できないこともあり、専門カウンセラーの必要性を感じる。
- ジュエリー業界への就職率は過去3年間95%を上回っている。
- J C, 技能検定ともに積極的に取り組んでいる。
- 就学中の学習成果を高める努力を資格取得、就職率で示してきたが、公募展（コンテスト）で入賞させる等の取り組みも必要である。
- 卒業生の本籍地、就職先（卒業時）等を整理した卒業生名簿を作成した。現住所や現在の就職先等については、調査する必要がある。

#### (5) 学生支援

評 価 項 目	評価結果
①学習に関する支援体制は整備されているか	3.1

②就職（進路）に関する支援体制は整備されているか	3.4
③学生相談に関する体制は整備されているか	3.0
④学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.1
⑤学生には積極的に声をかけるなど、常に状況把握に努めているか	3.4
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	2.7
⑦学生への情報提供は、十分に行われているか	3.0
⑧学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.7
⑨課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.1
⑩卒業生への支援体制はあるか	2.7
⑪保護者と適切に連携しているか	2.7

平均：2.99

#### 【評価内容】

- 就職については企業の情報収集を行うとともに、校内に企業を招き説明会を開催するなど、学生に多くの情報提供ができるように努めた。
- 経済的に困窮している学生に対しては、授業料減免制度を導入して支援している。来年度からは国の制度を活用し、更に授業料の減免制度を充実するとともに、新たに入学料の減免制度を導入する準備を行っている。
- 学生の精神的健康上の問題が増加しているが、学生ケアについて教員には難しい部分もあるので、スクールカウンセラーなど専門家への相談窓口の設置も検討すべきである。
- 卒業生名簿は整理できたが、情報は卒業時点で現状のものではないので、実態把握の調査が必要であり、さらに要望等も調査して支援策を考えるべきである。
- 保護者と意見交換する機会が無いので、授業参観実施やジュエリーマネジメントのプレゼンを見てもらうなど検討が必要である。

#### (6) 教育環境

評 価 項 目	評価結果
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.0

②学内の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.2
③学生が自主的に学習するための環境が整備されているか	3.1
④防災に対する体制は整備されているか	2.9
⑤図書室（書庫）の蔵書は、学生が活用するのに十分整備されているか	2.9

平均：3.02

**【評価内容】**

- 施設・設備については予算の範囲内ではあるが毎年整備している。予算に限りがあるので、更新計画をしっかりとて、教育上の必要性に応じていく必要がある。
- インターンシップについては業界の協力を得ながら、学生の要望を踏まえて実施できた。
- 海外研修については、香港の治安の問題も心配されたが、無事実施できた。
- 図書については予算の範囲内で毎年整備しているが、蔵書を全般的に見直すとともに学生や教員等からの要望をとるなど、蔵書の検討、充実が必要である。

**(7) 学生の受入れ募集**

評 価 項 目	評価結果
①高等学校等に対する情報提供等の取り組みが行われているか	3.4
②学生募集活動は、適正に行われているか	3.4
③学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3.4
④募集内容、募集期間など学生募集の周知は、十分行われているか	3.4
⑤オープンスクールの実施内容、実施回数などは、十分に行われているか	3.6
⑥県外の高校等に対しても、積極的に募集活動が行われているか	3.1
⑦学校案内、学生募集要項の内容は、十分必要な情報を掲載しているか	3.4

平均：3.39

**【評価内容】**

- 高等学校等に対する情報提供は、担当職員を配置し、本校の概要や特色、就職状況等の情報を学校を訪れて情報提供をしている。今年度は初めて県外の高等学校も訪問した。
- ホームページで紹介している学生の活動をチラシにして、高等学校の進路担当の先生に配布しては

うか。

○少子化による定員割れが想定され、例えば技能士3級保有者等の優先入学枠の設置など、高等学校に向けて新たな魅力を発信することも必要である。

○オープンスクールについては5回開催し、入学案内、カリキュラムや就職状況の説明、施設見学とともに、体験講座を開催して実際に触れてもらっている。今後も更に学校の魅力が伝えられるよう工夫していく必要がある。

#### (8) 法令等の遵守

評 価 項 目	評価結果
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.6
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.4
③自己評価を実施し、その結果を公開しているか	3.6
④外部関係者による学校関係者評価を行っているか	3.6

平均：3.55

#### 【評価状況】

○個人情報の保護については、あらゆる機会を通じてその重要性を周知している。

○学校評価として、自己評価や外部関係者評価を行い、公開しているが、学校評価は課題解決のきっかけに過ぎないので、指摘された事項に対して検討し、必要に応じ解決して初めて学校評価の意義がある。

#### (9) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	評価結果
①夜間講座は業界や従事者等のニーズを踏まえたテーマ設定となっているか	2.4
②学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.0
③学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2.6
④学校の立地条件を活用し、学校と地域とで連携した取り組みを行っているか	3.4

⑤交流スペースは積極的に活用されているか

3.0

平均：2.88

**【評価内容】**

- 夜間講座は定員に満たない講座が多く、改めて業界ニーズを探る必要がある。
- 夜間講座は役割を終え、高度ではなく、カルチャー教室としてはどうか。
- ボランティア活動は、常日頃、地元地域との連携による事業の中で積極的に行われることが望ましく、今年は紅梅通り文化祭や宝美祭前夜祭という形で実現できた。